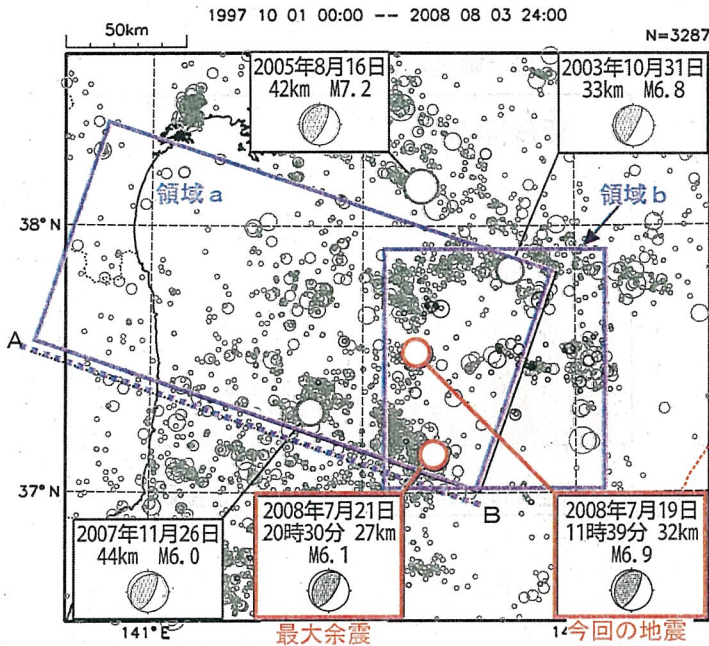


7月19日 福島県沖の地震活動

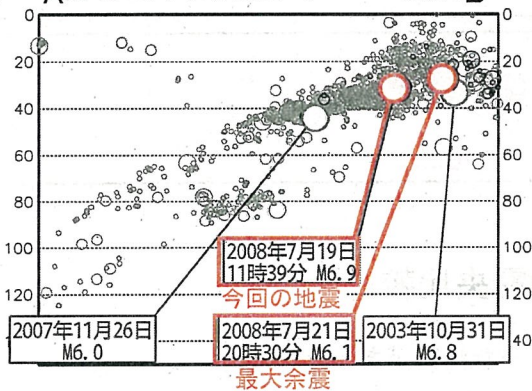
プレート境界、M6.9とM6.1、M6～M7クラスがまとまって発生する領域

震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 3.0$ 、深さ0～150km)

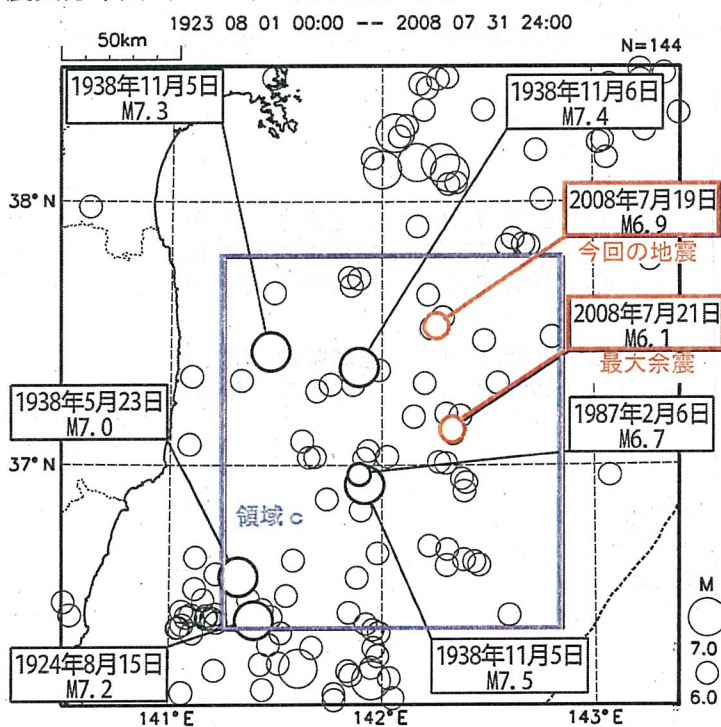


※発震機構はCMT解である

(i) A領域a内の断面図 (A-B投影)B



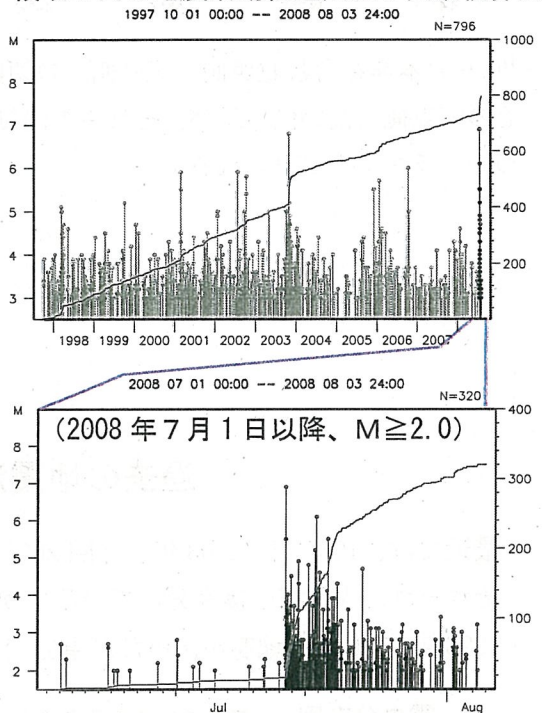
震央分布図 (1923年8月以降、深さ0～150km、 $M \geq 6.0$)



2008年7月19日11時39分に福島県沖の深さ32kmでM6.9（最大震度4）の地震が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。余震活動はM5を超える地震が4回発生するなど活発で、これまでの最大は7月21日のM6.1（深さ27km、最大震度4）である。その後、活動は徐々に減衰してきている。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、2003年10月31日にM6.8（最大震度4）の地震が発生するなどM6を超える地震が時々発生している。

領域b内の地震活動経過図及び回数積算図



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域c）はまとまった地震活動が見られるところで、1938年にはM7クラスの地震が4回発生するなど活発な地震活動があった。最近では1987年にM6クラスの地震がまとまって発生している。

領域c内の地震活動経過図及び回数積算図

